

けんぽんちゃくしよくぶ つ がじゅうにてんぞう
28. 絹本著色仏画十二天像

■ 指定日

昭和61年3月25日

■ 種別

兵庫県指定有形文化財 絵画

■ 年代

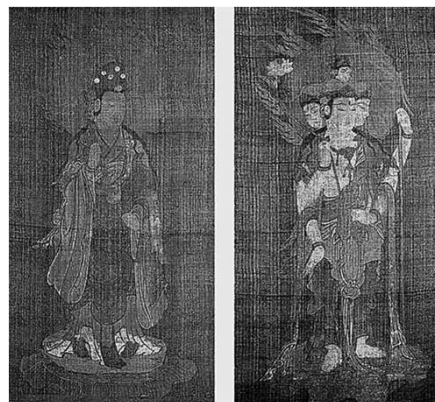
室町時代

■ 所在地

朝来市上岩津

■ 所有者

鷲原寺



■ 内容

いずれも絹本著色89cm×38cmである。裏書に「寛保三年(1743)十月五日求之」とある。江戸時代中期に鷲原寺に入ったものであるが、左下に山名宗全の署名と花押がある。宗全は但馬出石に本拠地を置いた戦国武将であるが、宗全自身が鷲原寺に寄進したものであるかどうかはわからない。

十二天というのは、密教で説く十二の守護神で、もともとは印度のバラモンの神々であったが、仏教に入り護法神となったものである。この十二天には、それぞれの守護位置がきめられている。

帝釈天(東)・火天(南東)・焰摩天(南)・羅刹天(西南)・水天(西)・風天(西北)・毘沙門天(北)・伊舎那天(東北)、以上で四方八方となり、梵天(上)と地天(下)と加わり、さらに日天と月天が入って十二天となる。